

作成日：R4年4月15日

令和4年度第1回 高松圏域自立支援協議会 運営会議議事録

日付	令和4年4月8日(金)
時間	9:20-11:00
開催会場	Zoom
参加機関等	香川県立高松養護学校、香川県立中部養護学校、高松市健康づくり推進課、直島町住民福祉課、障害者就業・生活支援センターオリーブ、障害者地域生活支援センターほっと、障害者生活支援センターたかまつ、相談支援センターりゅうん、発達障害者支援センターアルプスカガワ、地域生活支援センターこだま、支援センターgaryu、相談支援事業所ライブサポートセンター、高松市社会福祉協議会訪問介護事業所、地域活動支援センタークリマ、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 順不同 計16名

議題1：各部会等活動報告

議事	<p>主な報告内容)</p> <p>・就労支援部会</p> <p>イベント企画では雇用セミナーはオンライン開催、仕事サロンは中止となったが申し込みのあった方に対しては個別に対応をした。</p> <p>就労継続支援 A 型事業所の冊子リニューアルをおこなった。現在配付準備中。</p> <p>発達障がい者に対する支援で学校に入りにくい状況があったが、個別ケースを通じて連携できている。</p> <p>・精神保健福祉部会</p> <p>会議や集合形式でのピアサポート活動は中止となるものが多かった。</p> <p>地域移行・地域定着に関しては病院に外部の人が入る事が難しい状況が続いており、事例検討会も開催できなかった。</p> <p>昨年度開催できなかった医療と福祉の連携ワークショップは令和4年5月に開催することとし、現在参加者を募っている。</p> <p>ピアサポート連携強化に関しては啓発パンフレットのリニューアルを考えている。ピアサポートを利用したい方向け、ピアサポーターになりたい方向けの2種類に分けて作成することを考えている。</p>
----	--

・相談支援部会

Zoom のみで開催となる月もあった。相談支援専門員同士が会う機会が減っている。

研修では引継ぎに関すること、災害時・緊急時プランを取り入れた計画を立てることをテーマに実施した。少人数でグループワークをおこなうことで密な意見が出るようになった。

地域課題としてはヘルパー不足、重度訪問介護の使いにくさ等が上がっており、支援者にアンケートを取る等実施している。

・身体障害者支援部会

防災に関することとして10月30日講演会を開催した。内容が良かったが参加者が少なく、周知方法の見直しが必要との意見が出ている。災害弱者安心ネットワーク高松の取り組みを伺いに訪問している。今年度の取り組みとして協働できる事を検討中。

令和3年度ピアサポーター養成研修受講者に身体障害者3名がいるが、高松圏域ピアサポーター報告会が中止となり対面できていない。

地域移行に関しては昨年度は未実施

・知的障害者支援部会

地域移行ワーキンググループでは10月に相談支援専門員から好事例の共有・意見交換をおこなった。その後受け手側であるグループホームの担当者に集まっていたらご意見をいただく予定だったが、コロナの影響で開催できていない。

親亡きあとワーキンググループでは緊急時の持ち出しリスト作成のためのアンケートを検討中。

・事務局

就労継続支援B型事業所連絡会は4ブロックに分け開催し、令和4年1月にコアメンバーで振り返りを実施した。

災害時ワーキンググループでは令和3年11月にモデルケースの進捗状況を共有し、課題の抽出をおこなった。その後、課題を協議会に投げ込み、現在対応を検討中。

意思決定支援研修については対面でおこなうことを重要視しており、コロナ禍で延期となった。令和4年5月開催で調整中。対象は相談支援専門員とサービス管理責任者を予定。

・発達障害者部会

市町職員研修ではまるごと福祉相談員を対象に研修を実施した。今後も継続していきたい。

高校生向けのガイドブックは発達障がい者の対応経験の少ない教員でも活用できるようにマニュアル見直しをおこないたい。

乳幼児期の療育について、サービスに繋がらない方の支援等が課題と考えており、子ども部会と共に取り組む必要性を感じている。

・子ども部会

令和 2 年度におこなった障がい福祉サービスニーズ調査のアンケート結果をホームページ掲載できていない。今年度中に掲載する予定。

毎年開催していた児童発達支援・放課後等デイサービス連絡会がコロナの影響で 2 年続けて開催中止となっている。方法を変えて実施することを検討していきたい。昨年度は高松市教育委員会主催の教頭会に参加し、障がい福祉サービスについて説明をした。

事業所情報のホームページ掲載は適宜おこなっている。

・医療的ケア部会

3 月に高松市総合教育センターより医ケア児の幼稚園、保育所、学校での対応についてガイドラインの説明を受けた。

今年度もコーディネーター研修開催予定。今年度までの研修修了者が高松圏域だけでも 100 名を超えることが予想される。フォローアップ研修も継続して行う予定。

医療的ケア児法が施行され、今まで医療的ケア児を受け入れ実績のない事業所も利用希望が増えることが予想される。事業所へのアプローチは子ども部会とも協同でおこないたいと考えている。

医療行為になるてんかん薬の取り扱いについては香川県医療的ケア児支援センターや香川県と取り扱いを検討していきたい。

・居宅サービス事業所連絡会

令和 3 年は年度初めに実行委員会を開催し、過去におこなった事業所アンケートを元に研修内容の検討をおこなった。研修開催を検討したが、コロナ影響で開催には至っていない。

過去に研修会を実施するが、業務多忙で参加できない方が多いことは課題の一つであった。そのことも踏まえて研修会の開催方法を検討することが必要だと考えている。

・当事者家族連絡会

	<p>災害時バングナを 140 部作成し、聾学校、盲学校、中部養護学校小学部で配布した。市の職員向けに周知していただいたが、一般にも知っていただけるよう啓発をしていきたい。</p> <p>・地域生活支援拠点検討部会 強度行動障害スーパービジョン派遣に関して、同じ地域で同じ立ち位置で学び合う場ということを再確認した。 自立生活援助の活用研修はコロナの影響で開催には至っていない。 緊急時支援事業について高松市障がい福祉課、受け入れ事業所、高松市障がい者基幹センターで利用したケースの振り返りを実施。対応について協議し共有している。</p>
決定事項	—
今後の動き	—

議題 2：事務局からの報告	
議事	<p>○今年度決算について報告 コロナの影響で開催できなかった企画もあり、残金がでている。収支報告をおこない、市長へ返還予定。</p> <p>○令和 4 年度の活動及びそれに関する協議について ・来年度の部会体制について 3 月に実施した、部会等リーダー及び事務局での協議内容（部会の再編、部会長の任期等、令和 4 年度の体制について）を共有。 災害時の取り組みについて協議する場、居宅介護事業所連絡会と相談支援部会重度訪問ワーキンググループの在り方を検討する案があがっている。その他にも部会を越えて協議、協同した方が良いことも出てきている。 ・医療的ケアが必要な障害児へのスーパーバイザー派遣について検討中であること報告。 ・情報公開請求を受け、対応中。 ・高松圏域自立支援協議会ホームページの改編について報告。 当事者が情報を探す視点で項目を再編している。</p> <p>○令和 4 年度運営会、全大会の開催日程に関して周知</p> <p>○情報提供</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・香川県立高松養護学校よりサービス担当者会議の参加に関すること周知 ・香川県立中部養護学校よりサービス担当者会議の参加に関すること周知 <p>○委託支援事業所と基幹中核の合同会議について 昨年度、高松圏域自立支援協議会の課題提議をおこなった。協議会再編について協議会で検討が進んでいるので次の話題に移りたいと考えている。</p> <p>○Zoom 環境について 協議会として Zoom を活用できるように、パソコン、ウェブカメラ、マイクを購入し、インターネット環境、Zoom アカウントを契約予定。5 月中旬頃より活用できる予定。</p>
今後の動き	部会の再編成については、事務局がタイムスケジュール案を作り来月以降の運営会議にて協議していくこととする。

議題 3 : 情報提供

議事	<ul style="list-style-type: none"> ○香川県立高松養護学校より サービス担当者会議の参加に関すること周知 ○香川県立中部養護学校より サービス担当者会議の参加に関すること周知
----	--

R4 年度第 1 回高松圏域自立支援協議会運営会議
(ZOOM による意見交換)

参加機関)

香川中部養護学校・高松養護学校・高松市健康づくり推進課・高松市障がい福祉課（欠）
三木町福祉介護課（欠）・直島町住民福祉課
就労支援部会）かがわ総合リハビリテーションセンター成人支援施設
障害者就業・生活支援センターオリーブ
精神保健福祉部会）障害者地域生活支援センターほっと
相談支援部会）障害者生活支援センターたかまつ
身体障害者支援部会）障害者生活支援センターあい（欠）
知的障害者支援部会）相談支援センターりゅううん
発達障害部会）発達障害者支援センター「アルプスかがわ」
こども部会）地域生活支援センターこだま
医療的ケア部会）一般社団法人 garyu
当事者団体・家族会連絡会）相談支援事業所ライブサポートセンター
居宅サービス事業所連絡会）高松市社会福祉協議会訪問介護事業所
地域活動支援センタークリマ
会長、事務局）高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点

議題)

①自己紹介

①各部会等報告

別紙資料参照

②事務局より

○今年度決算についての状況報告

別紙資料参照

○R4 年度の活動及びそれに関する協議について

・来年度の部会体制について

3/15（火）10：00～部会等リーダー及び事務局にて、協議会にて各部会がより効率よく活動
でき成果をあげていくことができるようになるために、部会の再編、部会長の任期等、来年
度の部会体制について協議する。協議の上、6月からは変更が反映された体制となるように
する。別紙資料参照

・医療的ケアが必要な障害児へのスーパーバイザー派遣について

NICU を経て退院する医療的ケアが必要な障害児が地域の基幹相談支援センターに繋がる際に、退院時カンファレンスへの同席等、医療的ケア部会からスーパーバイザーが派遣できる仕組みを考えていきたい。

- ・意思決定支援研修の開催に向けて準備していく。別紙資料参照
- ・日本相談支援専門員協会主催オンデマンド研修「テーマ：障害福祉とこれからの防災」を受講し、圏域内で今年度に取り組むことを話し合う。別紙資料参照

○情報公開申請書の提出について

1 名の方が情報公開請求書の提出を希望され、当該市町、会長、事務局にて対応中です。

○協議会ホームページの改編について

「地域のお役立ち情報 2) 地域で活動する団体や研修、イベント等の情報」の構成を改編し公開しています。

③その他

来年度の運営会議開催予定（案）

*毎月第2金曜日 9：20～10：50 開催

月	日（第2金曜日）	備考
4	8	
5	13	
6	10	全体会開催月
7	8	休み
8	12	
9	9	
10	14	休み
11	11	全体会開催月
12	9	
1	13	*リハセンター貸し部屋不可
2	10	*リハセンター貸し部屋不可
3	10	*リハセンター貸し部屋不可

*7月、10月はそれぞれ相談支援現任者研修、主任相談支援専門員養成研修当日となり運営会議委員からも多くの研修参加者が生じるため、お休みとさせていただきます。

*コロナウイルス感染拡大の状況により、web会議やメールでの意見交換にて代替開催となる場合があります。

no.	部会名	今年度の目標	10~12月の目標	10~12月の評価と課題	1~3月の目標
1	就労支援部会	<ul style="list-style-type: none"> ・企業向けに障害者雇用フォーラム、しごとサロンたかまつ(障害者就職相談会)の開催 ・障害のある高校生・大学生の就労支援として、高校・大学を訪問し、先生・生徒・父兄に対し、啓発したり、必要に応じて就労支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問等をGoogle Driveなどの手段で管理し、関係機関職員が進捗を共有できるようにしていく。 ・2月の雇用フォーラムについては、完全オンラインで実施の方向とし、準備をすすめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問等をGoogle Driveなどの手段で管理し、関係機関職員が進捗を共有できるようにした。ただし、機関によっては、利用できないところもあり、今後の課題である。 ・2月の雇用フォーラムについては、完全オンラインで実施の方向とし、チラシも完成し、配布している。現在パワーポイント資料作成中。 ・就労移行支援事業所等委員会にて、発達障害のある学生について事例検討を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月の雇用フォーラムの開催。 ・障害のある学生支援体制を再確認していく。 ・小豆島の就労支援体制について状況把握しながら検討。
2	精神保健福祉部会	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉関係者による協議の場の継続 ・地域移行・地域定着の推進 ・ピアサポーターや関係機関、支援者間の連携強化 ・大川圏域との連携・協力体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健、医療と福祉の連携ワークショップの企画と開催。 ・精神科病院からの高齢者の退院支援のポイントの活用状況の確認。 ・ピアサポート活動推進WGのピア委員の増員と今後の活動の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携ワークショップについては、感染状況にかかわらず開催できるようリモートのみで開催を計画。 ・ポイントの活用状況について確認し1カ所の精神科病院で連携が強化されたとの報告有。また、来年度介護保険分野との研修会を実施する方向で企画することが決まる。 ・11月30日(火)にピアサポーター交流会を実施。ピアサポーターバンキングに登録しているピアサポーターの交流、研鑽の場も少しずつ整備されつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携ワークショップの開催は、次年度、春の実施に向けて準備を進める。 ・定期的に精神科病院からの高齢者の退院支援のポイントの活用状況の確認を続ける。また研修会の企画も継続予定。 ・高松圏域で展開しているピアサポート活動の実際を支援者を中心に知ってもらおう場を設定する。
3	相談支援部会	<ol style="list-style-type: none"> 1 メンバー全体の意見が集約できることを目指す 2 WGの目的を明確にし、ゴールを目指す 3 相談支援専門員全体のスキルアップを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・何らかの方法で、コア会議を行い、課題の整理をして、それをどう解決に向けていくかを検討する。 ・企画している研修をどう実施するか協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMでのGWをしながら、相談支援の質の向上を目指しての研修を実施している。研修①「計画相談における引継ぎ・移行に関すること」については、1月で終了予定で、研修②「緊急時、災害時プランについて」については、今年度中に1回実施し、後はR4年度に持ち越す予定。 ・12月には、「難病についての研修」を実施予定。ハイブリッドで行う予定で、当事者、家族、支援者の方は会場に来られる。現在参加者集約中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月は、研修①のまとめを行い終了とする。2月と3月は、どちらかで研修②の1回目を実施し、どちらかで今年度の部会の振り返りを行う予定としている。
4	身体障害者支援部会	<ul style="list-style-type: none"> ○防災に対しての取り組み ・サービス提供事業所向け研修会の実施・災害弱者あんしんネットワークとの連携・起震車を活用した体験の機会を設ける ○ピアサポーターに関すること ・県が行う研修へ参加し共有する。・Zoom等オンラインでの活動が可能か探る ○地域移行に関すること ・県協議会の動向を把握し、状況に応じて具体的な取り組みを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○10月30日(土)講演会実施。 ○講演会の振り返りを実施。 ○災害弱者あんしんネットワークとのコラボについて内容と方法の検討をおこなう。 ○部会の会議はオンライン活用もおこなう。 ○その他コロナ禍でもできる取り組みを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 10月30日(土) 13:00~15:30 「東日本大震災 障害者施設で起こったこと」と題し、会場Zoom等オンラインで実施。災害時の動きやそこから得た教訓、新たに今備えることなどの話がきけた。後半ではグループワークを実施し、他事業種の異なる意見や感想を共有できた。研修参加者のアンケートも実施できた。参加者が少なかったのが、次回の課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害弱者あんしんネットワークとのコラボについて内容と方法の検討をおこなう。 ○ピアサポーターに関すること ○地域移行に関すること

no.	部会名	今年度の目標	10～12月の目標	10～12月の評価と課題	1～3月の目標
5	知的障害者支援部会	<p>親なきあとWG、地域移行WG毎にk活動する。部会年3回、各WG年4回を予定。親なきあとWG：保護者と担当相談支援専門員が緊急に備えて協力して準備できることを整理し、関係機関との情報共有、協力を促す。地域移行WG：現状やこれまでの取り組みを整理して共有し、広く考えることができる体制をつくる。</p>	<p>(地域移行WG) 入所せず地域生活を続けている好事例について、関係者に参加頂き情報収集する。</p> <p>(親なきあとWG) 緊急事態発生時の対応についてのリスト(準備物、連絡先等)を作成する方法を検討する。作成後の周知方法について検討する。</p>	<p>※9月部会を実施</p> <p>(地域移行WG) 10/20実施</p> <p>（地域移行WG）4名の参加で好事例の共有、意見交換を実施できた。内容をより深めるため、次回は地域生活の担い手であるGH事業所に参加頂き、意見交換を行う。</p> <p>(親なきあとWG) 10/25実施。</p> <p>緊急に短期入所を利用する際の持ち出しリスト作成のためのアンケート検討中。</p>	<p>(地域移行WG) 1/25予定</p> <p>GH事業所に参加頂き、生活の担い手(受入側)としての意見をお聞きし、まとめていく。</p> <p>(親なきあとWG) 1/11予定。</p> <p>緊急に短期入所を利用する際の持ち出しリスト作成のためのアンケート検討中。</p> <p>※2月部会全体で共有し、今年度の取り組みについてまとめ、来年度の計画を立案する。</p>
6	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・部会や協議会の課題への取り組みがより共有され充実するよう運営会議のあり方を見直す。 ・意思決定支援WGにおいて、相談支援専門員とサービス管理責任者の協力のもと研修を行う。 ・災害時WGにおいて、医療的ケアの必要な方の災害時プラン作成を進める。 ・就労継続支援B型事業所の協議会との連携の在り方検討WGにおいて、就労継続支援B型事業所間の連携を促進する取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10/8運営会議、11月全体会、12/12運営会議開催予定。 ・相談支援部会で協議している課題についても、進捗状況管理表で共有化を図っていききたい。 ・協議会Hp「地域のお役立ち情報」について、ご本人が情報を収集する視点の構成に変更を検討し今年度中に改修する。 ・主任相談支援専門員の役割について、運営会議で議論を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月はメールでの意見交換、11月12月と対面での開催。 ・R3年度第2回全体会の開催と相談支援部会の協議課題の進捗状況管理表で共有が未実施。 ・協議会Hpについては作業中。 ・主任相談支援専門員の役割について、12月運営会議にて協議予定。 ・就労継続支援B型事業所の連絡会を4ブロックで開催し29事業所が参加。 ・11/9災害時WGにてモデル事例について避難行動訓練を実施し12/8会議実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度第2回全体会の開催と相談支援部会の協議課題の進捗状況管理表で共有が未実施。 ・就労継続支援B型事業所の連絡会については4ブロックのコアメンバーにて1月に振り返りの会予定。 ・11/9災害時WGにてモデル事例について避難行動訓練を実施。 ・意思決定支援研修を実施予定。
7	発達障害部会	<ol style="list-style-type: none"> 1) 高校生活ガイドブックの普及 2) 市町職員研修の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 市町職員啓発研修 <ul style="list-style-type: none"> ・高松市は、まると相談員、健康づくり推進課と調整する。 ・直島町は、コロナ感染が落ち着いたから実施する。 2) ガイドブック(GB) <ul style="list-style-type: none"> ・県高校教育課の教育相談会議でGBを説明する(11/12)。 ・アルプスカがわの学生プログラムでGBを用いてみる。その結果でGBを修整していく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 市町職員啓発研修 <ul style="list-style-type: none"> ・まると相談員など地域の支援ネットワークに関与することができた。 2) ガイドブック(GB) <ul style="list-style-type: none"> ・左記のPRと実践を実施したことで、現場のニーズが把握できた。 	<p>次年度の活動の方向性を議論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 市町職員啓発研修 <ul style="list-style-type: none"> ・事例を中心とした勉強会を実施するための方法を検討する。 2) ガイドブック(GB) <ul style="list-style-type: none"> ・現場でGBを使用する想定して、使用説明や導入部分の改良の検討を始める。 3) 新しい活動の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会全体の中での当部会の役割検討を始める。

no.	部会名	今年度の目標	10～12月の目標	10～12月の評価と課題	1～3月の目標
8	こども部会	①福祉サービスニーズアンケート結果についての意見交換/上半期 ②児童発達支援・放課後等デイサービス連絡会（1回）/下半期 ③小・中学校の教頭先生との合同研修会に参加（1回）上半期6月 ④相談支援専門向けの研修会の開催（1回）/下半期 ⑤部会開催（年2回）上半期/下半期 ⑥HPの事業所情報の追加・更新・改訂/上半期	②連絡会の開催について④研修会の開催について、どのような方法で実施するのについてを検討する。コロナの感染状況を見ながら対面での部会が出来る様であれば開き、難しい場合はメール上のやりとりとする。	①福祉サービスのニーズアンケート結果のHP掲載用の修正を行っている。 ②コロナ禍実施出来ていない ③1月に実施済み ④コロナ禍実施出来ていない ⑤新規・更新は随時更新中	①福祉サービスのニーズアンケート結果をHPに掲載する ②今年度は実施しない ③実施済み ④部会委員の意見を聞く ⑤随時更新予定
9	医療的ケア部会	医療的ケア児等コーディネーターの活用・保健師との連携・医ケア児支援センターとの連携	コロナの感染拡大中の中、会議の開催は難しい。コアメンバーでの会議にしていくべきか、zoom会議のような形にするかを今後検討していく。県で設立した「ソダテル」さんとの連携をしながら、母子保健コーディネーターと医ケアコーディネーターとの研修機会を持ちたい。	医ケアコーディネーターが今年度も開催され、多くの方がコーディネーター養成された。支援者のみの研修に参加者も多数おられた。	1月にフォローアップ研修と部会を兼ねた研修会実施 3月に今年度最後の部会を行う
10	居宅サービス事業所連絡会	・取り組む事項 調査結果をもとに、どのような内容の研修を開催するか検討する。 コロナ感染状況を踏まえ、研修の形態について検討する。 ・主な予定 実行委員会の開催 連絡会の開催 サービス提供責任者研修の開催	・実行委員会を開催するか、各実行委員と連絡を取って、当連絡会側のオンラインの発信態勢の整備について協議する。 ・発信態勢を整えることができれば、オンラインまたはハイブリッド形式での連絡会を開催する。	・オンラインでの連絡会開催について、実行委員会を開催するか、各実行委員と連絡を取って協議することが目標であったが、達成できていない。	・コロナウィルスの感染状況が変化しており、見通しを立てにくい現状である。実行委員会を開催することは無理かもしれないので、各実行委員にメールで連絡を取り、オンラインでの連絡会開催について意見を出してもらうこととする。
11	当事者家族会連絡会	合理的配慮の提供が、高松圏域で進むように、周知していく。	引き続き合理的配慮の提供が、高松圏域で進むように、周知をしていく。	・災害用パンダナの作成をしている。140部作成し、盲・聾・養護学校小学部に配布予定。	作成した災害用パンダナを、行政のホームページ・広報等で紹介してもらう事で、高松圏域での合理的配慮の提供が引き続き進むきっかけとなる事を目指していく。

no.	部会名	今年度の目標	10～12月の目標	10～12月の評価と課題	1～3月の目標
12	地域生活支援拠点検討部会	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問系サービス見守り支援WGでは、今年度中に、地域生活を継続するために自立生活援助の活用が有効であることを関係事業所へ伝える。 ・事業所WGでは、「緊急時」の定義についての認識の統一を図り、昨年度参加できていない生活介護・短期入所・計画相談の各事業所に対して、周知・啓発を行う。 ・強度行動障害に関するスーパーバイザー派遣については、引き続き希望事業所等への派遣調整を行うとともに、講師や派遣を受けた事業所等から現状や課題をうかがい、集約する。 ・部会全体での協議の場もち、方向性や地域生活支援拠点の検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害に関するスーパーバイザー派遣の運営の課題を整理する。 ・訪問系サービス見守り支援WG) 下半期に予定している「精神科病院、入所施設、グループホームから退院、退所の際に自立生活援助をいかに活用して地域生活を継続しているか事例を通して学ぶ機会」について詳細を次回に検討する予定。 ・高松市、直島町の緊急時支援事業について見直し、再確認後の動きを検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11/1強度行動障害Sv.派遣について課題整理を実施した。この事業を「同じ地域で同じ立場で学び合う」場と位置づけ、強度行動障害の支援の基本・支援者同士の共感支援・管理者向けの3点を担うことと整理した。 ・訪問系サービス見守り支援WGについては、12/22に「自立生活援助の活用研修」企画会議開催予定。 ・高松市、直島町の緊急時支援事業について、受け入れ事業所訪問を実施し、それを受けて見直しを実施中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害Sv.派遣について、来年度の運営方法を検討する。 ・「自立生活援助の活用研修」開催に向けて準備し開催する。 ・緊急時支援事業について、市、受け入れ事業所、基幹センターで協議し共有する。

【令和3年度 収支決算書】

1 収入の部

(単位：円)

	収入区分	収入額	備 考
1	委託料	1,000,000	
	計	1,000,000	

2 支出の部

(単位：円)

	支出区分	支出額	備 考
1	印刷製本費	114,290	領収証 印刷製本費 NO. 1 ~ NO. 22 参照
2	報償費	104,410	領収証 報償費 NO. 1 ~ NO. 26 参照
3	旅 費	13,200	領収証 旅費 NO. 1 ~ NO. 12 参照
4	消耗品費	355,533	領収証 消耗品費 NO. 1 ~ NO. 7 参照
5	通信運搬費	11,638	領収証 通信運搬費 NO. 1 ~ NO. 27 参照
6	委託費	110,880	領収証 委託費 NO. 1 ~ NO. 3 参照
7	その他雑費	138,600	領収証 委託費 NO. 1 ~ NO. 1 参照
	計	848,551	

(1) 事前資料をもとに本日までの経過を確認。(※以下、青字は当口資料のまま)

(12月10日委託・中核拠点合同会議で共有したこと)

- ・協議会全体で優先的に解決すべき地域課題を共有し、各部会等と協働しながら取り組む。
- ・協議会の構成員が当事者意識をもって協議会運営にかかわることができるようにする。
- ・協議会をスリム化することで効果的かつ効率的な協議会運営を目指す。
- ・若い世代に協議会運営に主体的にかかわってもらえるように配慮する。
- ・今まで以上に協議会活動の実際を効果的に地域に発信していく。

(12月10日委託・中核拠点合同会議で残された課題)

- ・本日参加していない部会リーダーと本会議の内容を共有する必要がある。
- ・よりよい協議会運営に向けた具体策について検討する必要がある。

(12月10日委託・中核拠点合同会議で確認した今後の方向性)

次回の委託・中核拠点合同会議に参加できていない部会リーダーにも参加いただき、よりよい協議会運営に向けた具体策について協議する予定。

(2) (次回部会長・事務局合同会議に提出するたたき台の作成)

- ①「協議会の構成員が当事者意識をもって協議会運営にかかわることができるようにする。」

(案) 部会長などと事務局で令和4年度6月以降の協議会の方向性案を作り、運営会議に持ち込み議論する。

そのうえで令和4年度6月以降の協議会の方向性を確定する。

→確認の結果、(案)のとおり準備を進める。

- ②「若い世代に協議会運営に主体的にかかわってもらえるように配慮する。」

「部会長。サブリーダーなどの任期はないのか？」

(案) 令和4年5月末で一旦、部会長等の任期を終えることとし、令和4年度6月から新体制とする。任期は2年とし、基本的には2年後は部会長、サブリーダーは交代するとしてはどうか？(初回のみ1年10か月 令和4年6月～令和6年3月) また、その際若い世代や委託、基幹センター以外のメンバーを積極的に登用してはどうか？

【補足】同じ部会のリーダーを続けることのメリットもあるが、任期を設けるほうが新しい人も入りやすいのではないかと。ただし、すぐに準備や変更が可能な部会とそうではない部会もあるかもしれないため、部会ごとに検討する必要はある。

【意見】

- ・部会長の再任は妨げず、計画的に交代していけるようにする工夫が必要。
- ・専門的な部会の場合、どのようにつないでいけるのか。
- ・各部会のことが、外部からはわからないことが多い。各部会の取り組みが閉じている印象があると、次の部会長なども現在の部会内でおさめないといけない状況があるのかもしれない。少し広げて検討していく必要性があるのでは。
- ・確かに部会内で交代するほうが支障は少ないが、広く検討していく形は必要。
- ・委託事業所が協議会の運営をする役割があったと思うが、その枠をとってしまっても大丈夫か。

- ・事務局としては必ず運営＝リーダーでなくても良いのではないかという考え。
- ・圏域の他の参加者にも広げる必要性もあり、部会内に限定せずとも。
- ・リーダーを選定する際に果たして、部会外の参加者に依頼できるだろうか。
- ・部会長に専門性の必要性のあるなしで部会のカラーが違う。
- ・福祉分野以外の支援関係者にも、協議会全体として説明や広報があることで、他分野からも参加しやすく、また参加してもらいやすい。
- ・部会の構成メンバー自体も進め方などもこのままでいいのだろうかという疑問がある。

→以上のような意見を踏まえて、この後の2年間で検討と準備を進めていく。可能な部会は6月から部会長も交代する。

③(案) 災害時の取り組みについて協議する場を再編する。

現在災害時の取り組みについて協議している災害時WGを令和3年度末で一旦終了し、身体障害者支援部会、災害時WG等それぞれの部会やWGで取り組んできたことを共有し、協議会としてどのように協議を進めていくか検討する必要がある。

【意見】

- ・一つの部会で研修などを実施した際に、その内容から障害の枠を区切るのはもったいないと感じた。他の部会に共通している事柄が多くある。
- ・災害用のパンダナについて広報していこうとしたが、市の活動と重複するため行政からストップがかかった。また災害のことももちろんであるが、協議会全体の広報活動も必要。
- ・行政とともに進める必要性のある内容は協議会としても、どこまで取り組む必要があるのか。
- ・災害については、医療的ケアや身体障害のことに加えて、事業所ごとのBCP計画のことも合わせて、現実的に進めるほうが進めやすいのでは。

→身体障害者支援部会長、医療的ケア部会長、当事者家族会連絡会リーダー、相談支援部会、事務局と希望する運営会議委員で災害時の取り組みについて自由に意見交換したうえで、運営会議で方向性を確定する。

④(案) 居宅介護事業所連絡会と相談支援部会重度訪問介護WGの在り方を検討する。

ヘルパーに関する地域課題が多く抽出されている中、効果的に課題に取り組むためには検討する場所を統一した方が効率的に協議できると考えられる。ただ、いかに優先的に検討すべき項目を決めていくのか委員間で共有するために時間を費やすべき。

【補足】

- ・コロナの対応など状況によって変わるものと人材不足など継続している課題がある。
- ・重度訪問介護などは全体のヘルパー数が減ると、指定を取っていても実際の支援はできないことも。そのため、サービスの視点で協議しても根本の課題は人材不足。
- ・移動支援に関する調査。事業所も少なくヘルパーも少ないため、支援が提供できていない。また先進地の調査（聞き取り）を行ない、有効な活用方法についても確認している。

【意見】

- ・ヘルパーさんの実際のしんどさなども今後検討するのか。働く側の課題にも取り組んでいけるか。

当事者の側の課題はもちろんであるが、そういったところまでカバーできるのか。

- ・事業所の収入の面の課題もある。行動援護の必要性があるのに、移動支援のサービス内で支援しているケースがあったり、二人介助の基準なども、ヘルパーへの負担として大きくなっている。
- ・アンケートの活かし方、そのあとに進めていくことが大事。
- ・移動支援のグループ支援の実情など確認する中で、行政を巻き込んで協議会の動きとして取り組んでいく。
- ・居宅介護事業所連絡会のアンケートの結果にもとづいて、人材不足、コロナ対応、困難事例の研修を実施する予定であったが、、、。

→まずは、居宅介護事業所連絡会リーダー、相談支援部会長それぞれの状況を確認したうえで、事務局と希望する運営会議委員を加えてヘルパーに関する地域課題への取り組みの在り方について自由に意見交換したうえで、運営会議で方向性を確定する。

次回、会議の日程 →令和4年3月31日（木）9：00～10：00（リモート）

高松圏域自立支援協議会 災害時に関する取り組みに係る協議

- ・日 時：令和4年3月29日（火）15：00～16：10
- ・出席者：関係部会リーダー等
- ・形 式：WEB 会議
- ・テーマ：令和3年度まで各部会等で災害時を見据えた障害者の支援をどのように展開すべきか検討してきた。これらの取り組みは、重なることも多く、効率的にかつ効果的に協議を進めていくためには、工夫が必要である。そのため、本会議でその手法について協議する。

1. 災害時 WG の取り組み

- ・医療的ケアが必要な方の災害時の備えについて関係者が集まり、モデル的に支援を進めてきた。医療的ケアの分野では支援者が多岐にわたり、誰に災害時の情報が集約されるか等キーパーソンを選定するのに苦労した。
- ・健康福祉総務課に避難行動要支援者名簿への登録と保健センターに難病の方が災害時を見据えて登録する仕組みの運用についてそれぞれの特徴について整理しないと当事者はもとより支援者も理解が不十分なため適切な活用が見込めない。

2. 身体障害者支援部会の取り組み

- ・令和3年度に防災に関する研修会を開催したが、その他の障害種別の支援者や障害福祉サービス事業所の支援者にも講義を聞いてもらいたかった内容であった。
- ・災害時弱者安心ネットワークとの連携のあり方について協議している。

3. 相談支援部会

- ・災害時を見据えたサービス等利用計画を立てている相談支援専門員はまだまだ少ない。現在、部会で研修をしながら必要な方については、サービス等利用計画に災害時の支援について反映できるようになることを目標に取り組んでいる。

4. 当事者家族会連絡会

- ・特別支援学校に災害時に活用できるようにバンダナを作り配布した。

5. 結論

- ・避難行動要支援者名簿への登録と保健センターに難病の方が災害時を見据えて登録する仕組みの運用について整理し、それぞれの対象者を明確にし、重複して登録することや支援者がどちらの仕組みを活用すればよいか分からない状況をなくするための取り組みを行う。さらに、必要がないのに名簿への登録を促すことがないようにし、名簿登録

によって地域住民が障がい者の災害時の支援についてより一層関心を持つようにする。

- ・災害時を見据えた支援が必要な方のサービス等利用計画に具体的な支援の内容が明記されることを目標とする。ただし、圏域の現状を鑑みると十分な支援ができていないと言いき難い。そこで、よりよい支援を行うためには、障がい種別の支援方法や地域住民との連携方法など先進事例などを参考に研修を積み重ねることが重要と考える。
- ・個別支援を通して抽出された課題を健康福祉総務課や障がい福祉課、社協など関係機関を加えた関係者で一つ一つ解決していく。
- ・上記の取り組みを効果的に推し進めるために運営会議の場を活用し、必要によって部会等とともに取り組む仕組みとする。

高松圏域自立支援協議会 ヘルパーに関する取り組みに係る協議

- ・日 時：令和3年3月30日（水）13：30～15：00
- ・参加者：関係部会リーダー等
- ・形 式：WEB 会議
- ・結 論：

居宅介護事業所連絡会と相談支援部会24時間訪問介護ワーキンググループ、基幹センター移動支援調査グループをいったん終了する。そのうえで、居宅介護事業所のサービス提供責任者等が定期的（月1回又は2か月に1回程度）に集まり、横のつながりを作り、困ったときに気軽に相談できたり、支え合える関係を構築する。さらに、利用者のニーズに居宅介護事業所が十分に対応できていない地域課題への対応策（重度訪問介護を提供する事業所の拡充や移動支援グループ支援型の創設等）をどのように推進すべきか居宅介護事業所と関係機関がわが事として検討できる協議の場を創設する。ただし、居宅介護事業所が忙しい中でも参加しやすいように工夫することが求められるため、ZOOM等の活用も検討すべき。また、協議の場のメンバーは、居宅介護事業所連絡会と相談支援部会24時間訪問介護ワーキンググループの委員から選出し、かつ必要な方を外部から人選するイメージ。

高松圏域自立支援協議会 障がい児の支援をより効果的なものにするための取り組みに係る協議

- ・日 時：令和3年3月31日（木）9：00～10：15「
- ・参加者：関係部会リーダー等
- ・形 式：WEB 会議
- ・結 論：

医療的ケア部会、発達障害部会、こども部会の代表者で一度集まり、障がい児支援に関する地域課題を整理し、どの課題をどのように解決していくのか検討する。その検討結果を運営会議に報告する予定。本日の協議では、検診や幼稚園、保育所との連携の課題などもあり学齢期に入る前の乳幼児期の相談が相談機関にあがってきていないケースがあるのではないかと、医療的ケアの必要な障がい児の支援ができる放課後等デイサービス事業所の拡充が必要、障がい児支援において将来を見据えた支援をするという意識を高める必要があるのではないかと等の意見が出された。

高松圏域自立支援協議会 就労支援をより効果的なものにするための取り組みに係る協議

- ・日 時：令和3年3月31日（木）9：00～10：15「
- ・参加者：関係部会リーダー等
- ・形 式：WEB 会議
- ・結 論：

例えば、就労継続支援 B 型事業所において一般就労を目指している利用者があるがつなげるためのノウハウがない、就労系の事業所で精神障がいや発達障がいの特性やかわり方を理解したうえでかわる方法が分からない等の課題がある。また、精神保健福祉部会では、就労継続支援 B 型事業所などでスーパービジョンを行ったことがあるがアフターフォローするなど継続的な支援はできていないという課題がある。今後、就労支援部会、就労継続支援 B 型連絡会、精神保健福祉部会、発達障害部会それぞれに上がってきている課題を共有し、課題解決に向けた取り組みについて検討する。

高松圏域自立支援協議会 ピアサポーターと活動推進ための取り組みに係る協議

- ・日 時：令和3年3月31日（木）9：00～10：15「
- ・参加者：関係部会リーダー等
- ・形 式：WEB 会議

・結 論：

高松圏域におけるピアサポート活動の実践について各部会から報告し、采井会議で共有することが決定した。具体策については改めて事務局から提案する予定。

意思決定支援研修開催のお知らせ（案）

日々の支援の中で利用者の意思決定が必要な場面は多々あると思います。そんな時、皆さんはどういった支援をしていますか？利用者の思いをしっかりとくみ取っていますか？いつの間にか支援者の都合のいいように意思決定をしてはいないでしょうか。また、利用者さんの意思をくみ取るには様々な課題や支援者に葛藤があるのも事実です。その中で私たちには利用者の願う大切な「自分らしい選択」に向けた意思決定支援力の向上が問われているのです。

本研修では、講義と演習を通して、利用者の意思決定支援における基本的な知識を獲得すると共に、相談支援専門員とサービス管理責任者等が演習を通じて意見交換や自身の支援の振り返りができる機会になればと考えています。皆様のご参加をお待ちしております。

1. テーマ「支援現場における意思決定支援について」

～ 意思決定支援の基礎知識と実践事例 ～

2. 開催日時 令和4年5月 30日（月）13時～15時

3. 場 所 かがわりハビリテーションセンター 2階研修室

4. 対 象 相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者、
その他管理者等

5. 主 催 高松圏域自立支援協議会

6. プログラム

(1) 行政説明 高松市障害福祉課

(2) 講義「意思決定支援の基礎知識」

(3) 演習1「Oさんの支援を通して」

(4) 演習2「意思表出が困難な利用者の支援を通して」

(5) まとめ「研修を通して」

7. 申し込み 別紙「参加申し込み」にて、○月○日（ ）までに FAX またはメールでお申し込みください。

申し込み先：基幹相談支援センター ○○

〒○○○-●●●● 高松市○○町○-○

電話：087-○○-○○○ FAX：087-○○-○○○ E-mail ○○@○○

意思決定支援研修 参加申し込み

参加申し込み

基幹相談支援センター ○○ 宛

FAX：087-○○○-○○○○ (送信表不要)

所属	役職・職種	氏名	経験年数

事前の質問等ございましたらご記入ください。

締切り令和4年○月○日 ()



東日本大震災の発生から昨年3月11日で丸10年を迎えました。未曾有の大災害は死者約1万9000人、行方不明者約2500人を出し、令和3年12月現在いまだ約3.9万人が避難生活を送っています。一方、地球規模でさまざまな自然災害が頻発し、災害が「非日常」から「日常」になり、益々平時の備えが重要となっています。

そこで、日本相談支援専門員協会は「東日本大震災から10年」という節目に際し、左記の内容で障害福祉関係者との研修会を企画いたしました。

石巻市内の仮設住宅が、令和2年1月をもって解消したことにみられるように、物心両面でご努力された、すべての関係者に心より感謝いたします。復興が一日も早く成就し、震災で亡くなられた方々の哀悼の機会になるよう企画いたしました。

「障害者福祉とこれからの防災」 研修会

日時；令和4年3月25日(金)13時15分～17時00分
会場；石巻市防災センター 多目的ホール

(会場ご案内)

<https://www.city.ishinomaki.lg.jp/cont/10106000/-map/20190624145741.html>

テーマ：障害者福祉とこれからの防災

プログラム：

13:00 受付

13:15 開会 挨拶

13:30～14:45 第1部 講演「誰一人取り残さない防災
(i-BOSAI)の実現に向けて」

講師；同志社大学教授 立木茂雄 氏

15:00～17:00 第2部 シンポジウム「東日本大震災から10年
日常化する災害」

～障害のある方の生活支援と防災～

司会 同志社大学教授 立木茂雄 氏

シンポジスト ①石巻市・女川町基幹相談支援センターくろみ
齋藤康隆 氏

②熊本県障がい者相談支援事業連絡協議会
大島真樹 氏

③岡山県相談支援専門員協会
永田 拓 氏

④社会福祉法人けやきの里
内山智裕 氏

主催 NPO 法人日本相談支援専門員協会
(一社) 宮城・仙台障害者相談支援従事者協会

共催 石巻市女川町自立支援協議会
東松島市障害者総合支援協議会

後援 宮城県
石巻市
女川町
東松島市

お問合せは Eメールにて

(日本相談支援専門員協会)

Eメール； office@nsk09.org

【受講料】 ①会場受講者 : 定員60名(無料)
②オンデマンド配信：定員なし(1,000円)

令和4年度香川県圏域相談支援機能強化事業企画案

1. 目的

大規模災害が発生した際に誰一人として取り残されることがない地域にするために我々に何ができるのか各圏域の自立支援協議会で検討し、令和4年度の成果目標を共有することを目的とする。

2. 期間：令和4年度4月頃（予定）

3. 対象者

各圏域自立支援協議会において障害福祉分野の防災に関する取り組みについて最も協議をする場として適している1～2グループ（部会等）のメンバー（メンバーの中に市町防災部局担当者、障害福祉主管課担当者、相談支援専門員として防災の取り組みを推進する立場にある方を含むことが望ましい。）

4. 内容

（令和4年4月頃）

圏域マネージャーを中心に本研修を受講するメンバーを選定して、日本相談支援専門員協会主催オンデマンド研修「テーマ：障害福祉とこれからの防災」を受講する。

・別添1参照

受講料は無料（圏域相談支援機能強化事業で負担予定）

（令和4年5月～6月頃）

各圏域マネージャーが、本研修受講報告書を香川県相談支援専門員協会に提出する。

・別添2参照

（令和4年6月）

令和4年度第1回香川県自立支援協議会運営部会において各圏域で本研修を受講した感想及び令和4年度の障害児者における災害時の支援に関する成果目標を発表する。

（令和4年6月以降）

各圏域において策定した成果目標達成に向けた進捗状況を運営部会で報告する。

研修会「障害福祉とこれからの防災」視聴に関する申込書兼報告書
【 圏域】

事業所名 作成者

- (1) 視聴期間：
- (2) 対象者（氏名及び視聴するグループ名）：
- (3) 視聴の方法

(4) 参加者の意見など

(5) 令和4年度各圏域で共有した成果目標

(6) その他

ペ切 4月13日(水)

オンデマンド研修申込書

1. 代表者

圏域名・圏域マネージャー氏名

() 圏域 氏名(漢字:) (フリガナ)

2. 視聴するグループ名及び氏名

グループ名:

(記入例: 協議会相談支援部会委員とA市障害福祉課、A市危機管理課

※別添資料を参考に徴するグループを決めてください。

参加者

氏名(漢字)	氏名(フリガナ)

※必要に応じて名簿は増減させてください。

令和4年4月12日

相談支援事業所各位

香川県立高松養護学校
校長

本校教員のサービス担当者会議への参加・情報提供について

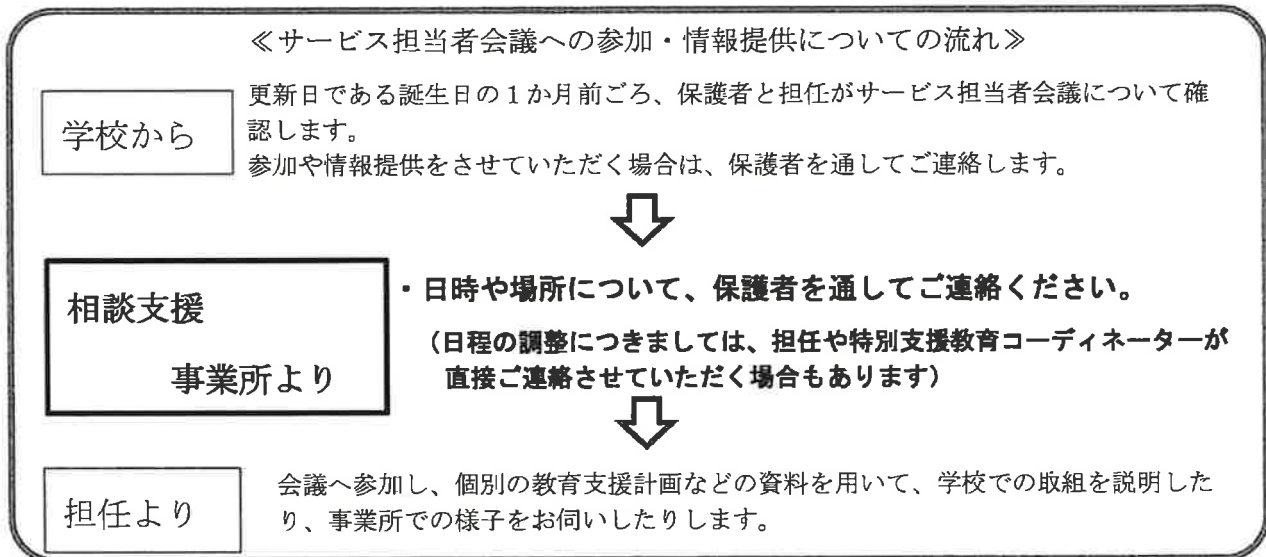
春暖の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のことと心よりお喜び申し上げます。平素は本校の教育につきましてご理解をいただきありがとうございます。

さて、本校では現在在籍する児童生徒の約8割が支援サービスを利用しています。

本校に在籍する児童生徒の支援サービスの利用にあたり、担任等がサービス担当者会議に参加させていただくことで、支援サービス利用の状況や過ごし方などの情報を得たり、学校での支援の情報をお伝えしたりすることができ、教育や支援の質の向上が期待できると考えています。

つきましては、下記の「サービス担当者会議への参加・情報提供についての流れ」をご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。

記



ご確認いただきたい点

- ・本事業は高松養護学校独自のものです。他の特別支援学校の対応とは異なりますのでご注意ください。
- ・相談支援員への連絡は、原則保護者が行います。(日程の調整については、担任や特別支援教育コーディネーターが直接連絡をとることもあります。)
- ・本校を会場にお使いいただけますと、複数の教員が参加し、話し合いを行うことができます。是非ご検討をお願いします。
- ・不明な場合は担任、又は特別支援教育コーディネーター
まで
お尋ねください。

香川県立高松養護学校

個別の教育支援計画



子どもたちの
より豊かな生活の
実現を目指して

個別の教育支援計画とは・・・

個別の教育支援計画とは、本人や保護者の希望を踏まえ、障害のある児童生徒一人一人に必要とされる教育的ニーズを関係機関(教育、医療、保健、福祉、労働等)と連携して正確に把握し、幼児期から学校卒業までを通じて一貫して適切な支援を行うことを目的として作成されます。

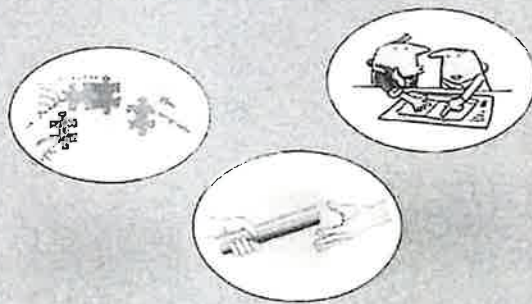
【香川県教育委員会「すべての教員のための特別支援教育ハンドブック」より】

子どもたちの将来に繋がる
大切な計画書です

A より豊かな生活をイメージして、教育的ニーズを整理するためのツール

B 連携のためのツール

C 必要な支援を引き継ぐためのツール



POINT①

A「より豊かな生活をイメージして、 教育的ニーズを整理するためのツール」



個別の教育支援計画を作成する前に、まずは本人・保護者・担任で「より豊かな生活」をイメージします。

そして、そのために必要な支援について、本人・保護者・担任が話し合いながら、個別の教育支援計画を作成します。



現在の願いや課題を知り、「より豊かな生活」の実現のために必要なこと(教育的ニーズ)を考えます

本校様式:個別の教育支援計画 I

個別の教育支援計画 I	
〇〇部 年	香川県立高松養護学校 作成者氏名 _____ 令和 年 月
本人 保護者 (困っていることなど) 現在の課題	現在の生活の充実や将来のより豊かな生活の実現に向けての課題について記入します
本人 保護者 (つきたい力など) 現在の願い	より豊かな生活の実現に向けて取り組んでもらいたいことや、支援してほしいことを記入します
児童生徒のニーズ (より豊かな生活の実現のために必要なこと)	
上欄を踏まえて、本人や保護者、担任で、協議し、教育的ニーズを整理します	
連携する関係機関等	連携の記録・履歴
この支援計画を了承します。 令和 年 月 日 氏名	

本人や保護者の
現在の課題 (困っていること)
現在の願い (つきたい力)
を明確にします

本人・保護者・担任で
「より豊かな生活」のイメージ
を話しあいます



実現のために必要なこと
(教育的ニーズ) を考え、整理します

必要な連携機関を書き出し、実際に
行った連携の履歴を記入します

教育的ニーズって？

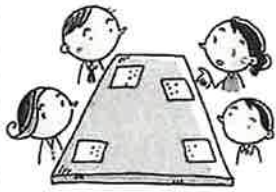
子どもの「より豊かな生活」の実現のために必要なことを教育的ニーズと言います。いくつもの教育的ニーズを網羅的に支援することは、限られた学校生活の中だけでは到底難しく、重点的に行うことを絞り、整理することが必要になります。そこで、本校では、整理するポイントを以下の2点とし、教育的ニーズの整理を行っています。

- <整理するポイント>
- ①優先度の高いもの
 - ②実現できる可能性の高いもの



POINT ②

B「連携のためのツール」



子どもの「より豊かな生活」を実現するためには、学校だけでなく、広い視野で子どもの生活を把握し、支援していく必要があります。

校内の関係者や校外の関係機関と情報交換するだけでなく、それぞれの立場でできることを話し合い、役割分担するためのツールとしても個別の教育支援計画を使っています。

高松養護学校では、個別の教育支援計画を校内・校外の会議に持ち込み、校内・校外関係機関との連携ツールとして活用をしています。

児童生徒を支援する関係者・機関が集まり、個別の教育支援計画をもとに、支援目標や支援内容について情報を共有します。そして、支援目標に対して、具体的に「誰が」「いつ」「何をするのか」といった支援の役割分担まで話し合います。

＜校内における活用例＞

- ・前期・学年末懇談会
- ・自立活動室・寄宿舎との打合せ
- ・医療的ケア児の連絡会
- ・その他のケース会

＜校外の関係機関を含む会議等での活用例＞

- ・サービス担当者会議
- ・PT・OT・STなどのリハビリ見学
- ・現場実習や進路に関する会議
- ・その他のケース会

**「より豊かな生活」の実現のために、
学校・家庭・関係機関が連携した具体的な計画を立てます
本校様式：個別の教育支援計画Ⅱ**

個別の教育支援計画Ⅱ				
〇〇部 年	香川県立高松養護学校 作成者氏名 _____ 令和 年 月			
支援目標	支援の内容			
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名(年月日)
支援目標に対して、誰が、いつ、何をするのかを具体的に決めます				
教育支援計画Ⅰの「児童生徒のニーズ」に対応した今年度の支援目標を記入します	学級、家庭での支援内容を保護者と話し合い記入します		支援目標に対応した校外の関係機関(デイサービス、ヘルパー、PT、OT等)の支援内容や支援を行う機関名、担当者名を記入します	
支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項				
年度末(1月～2月)に、一年間の取組の評価を記入します				
この支援計画を了承します。 _____ 令和 年 月 日 氏名				

より豊かな生活を考えるヒント

「より豊かな生活」を考える際に大切なことは、将来を漠然とイメージするのではなく、〇年後の「より豊かな生活」について具体的に考えます。小学部に入學したばかりの児童であれば、2、3年後の生活のイメージになりますし、高等部の生徒は、間近に迫った卒業後の生活を見据えたイメージになります。

また、以下の2つの視点を加えることで、より具体的な生活をイメージすることができます。

- ①現在の生活における課題を解決することで、自分らしく輝ける生活ってどんな生活ですか？
- ②社会参加や自立に向けて、本人の得意なことを活かして、どんなことができるようになるかとよいですか？

POINT ③

「必要な支援を引き継ぐためのツール」

毎年、新しく作成するのではなく、旧担任から引き継ぎ、支援内容を追加・更新し、さらに、次の担任に引き継いでいくものです。



支援計画の案を引き継ぐ



さっそく支援をスタート

連携に使い、随時更新



1年の取組を踏まえ次年度の案を立てる



次の担任へ引き継ぐ

個別の教育支援計画作成・活用しての効果

■ 保護者の声

- ・ 漠然とした悩みを打ち明け、それを書面にすることで親としては安心感をもつことができました。
- ・ 個別の教育支援計画を介し、子どものためにみんなで支援を考え、今までの支援をより良いものに修正や追記をしてもらえるのは、とてもありがたいです。また新たに修正や追記した個別の教育支援計画を関係機関に配布することで、学校、家庭、福祉事業所が連携して支援を行うことができおり、子どもにとってプラスになっていると感じます。

■ 関係機関の声

- ・ 毎日子どもと関わっている学校の情報は豊富で、内容も深くとても参考になります。サービス担当者会議で確認した支援内容や役割分担を、放課後等デイサービスのスタッフ間で共有しています。活動の中に、学校での学習や身体のケアを取り入れるようになりました。
- ・ 卒業後も、家庭と事業所で学校からもらった情報を継続して取り組むことができます。

■ 教員の声

- ・ 成長とともに本人の身体や学習内容は変わっているので、年度初めに立てた支援目標や支援内容については、サービス担当者会議をきっかけに、修正して最新の支援内容になる機会となっています。
- ・ 学校の関係者間で、個別の教育支援計画の支援目標や支援内容の情報を共有することで、各教科の担当の先生も同じように取組みを行ってもらうことができ、課題であった行動が解消されました。

個別の教育支援計画の様式

個別の教育支援計画の様式、具体的な記入方法や年間スケジュールなどを高松養護学校のホームページに載せています。

また、個別の教育支援計画の様式をダウンロードすることができます。ぜひ、ご活用ください。



香川県立高松養護学校ホームページ

<https://www.kagawa-edu.jp/takayo02/htdocs/>

個別の教育支援計画を作成するにあたり、子どもの基礎情報を収集するための調査票があります。(本校様式:調査票①②)

調査票①	調査票②
<p>子どもの基礎情報</p>	<p>医療・福祉・労働関係等の関係機関の一覧</p>

「からだと学びの相談センター」

「からだと学びの相談センター」(担当:支援教育部)では、個別の教育支援計画についてのご相談を、随時お受けしてしています。

例えば……

- ・ 個別の教育支援計画の立て方、活用の仕方について教えてほしい。
- ・ 自分なりに作成してみたけど、足りない視点や内容がないか、アドバイスしてもらいたい。

香川県立高松養護学校

〒761-8057 香川県高松市田村町1098番地1

TEL:087-865-4500

Email:takayo01@kagawa-edu.jp

令和4年4月5日

関係機関各位

香川県立香川中部養護学校
校長

本校職員のサービス担当者会議への参加について（お願い）

近年、支援サービスの利用が増え、本校でも多くの幼児児童生徒が利用しています。

本校では、相談支援事業所と連携を図りながら、サービス担当者会議への参加を進めたいと考えております。学級担任等がサービス担当者会議へ参加させていただくことで、支援サービスの利用状況や過ごし方などの情報を得たり学校での取組のねらいや様子を伝えたりする等、情報交換ができた教育的なニーズを共有できると考えています。

つきましては、下記の「本校職員がサービス担当者会議に参加するにあたって」をご理解いただき、ご協力をお願いします。

記

本校職員がサービス担当者会議に参加するにあたって

1 会議までの流れ

相談支援事業所または保護者より、参加の要請をお願いします。

（連絡先：学級担任もしくは各部特別支援教育コーディネーター）

日時の調整を行います。

- ・本校の職員が出席できるのは「授業時間外（放課後や長期休業中）、本校で実施」していただける会議です。本校を会議の場所としてご活用下さい。

会議への参加

- ・保護者より了承をいただいた場合、個別の教育支援計画等を用いて学校での取り組みを説明させていただきます。

2 その他

- ・日程の都合がつかず出席が難しい場合は、電話での情報提供も可能です。必要に応じて、お電話下さい。
- ・不明な場合は担任、もしくは特別支援教育コーディネーターまでお尋ねください。